

# 行政視察報告書

令和7年10月28日

長浜市議会議長 伊藤 喜久雄 様

長浜市議会議員 藤井 登

私が出席した次の行政視察の結果について報告します。

## 記

1. 観察等名 令和7年度健康福祉常任委員会行政視察研修
2. 観察期間 令和7年10月22日（水）～10月23日（木）
3. 観察場所及び目的
  - ①大阪府泉大津市  
健康増進施策あしゆびプロジェクト
  - ②大阪府泉大津市  
マタニティ応援プロジェクト
  - ③大阪府豊中市  
生ゴミ・剪定枝堆肥化施設 緑と食品のリサイクルプラザ
  - ④大阪府豊中市  
療育（0歳～就学前）
4. 調査内容感想等

### ・観察の目的

- ① 大阪府泉大津市 健康増進施策あしゆびプロジェクト  
近年、健康で活力ある長寿社会の実現に向けて、健康寿命の延伸が全国的に重要な取組目標となっています。  
特に高齢者の要介護原因の上位を占める「転倒」「骨折」「運動機能の低下」への予防が重要とされています。  
泉大津市では、足指や足裏に着目し、幼児期から高齢期までの全世代を対象に「正しい姿勢」「体幹の安定」「歩行力の向上」を目的とした健康プログラム「あ

長浜市議会

しゆびプロジェクト」を平成30年より推進しています。

本視察では、同市が官民連携・市民共創で進めるこの取組の仕組みや成果を学び、本市の健康増進施策への活用を検討することを目的としました。

## ② 大阪府泉大津市 健康増進施策マタニティ応援プロジェクト

泉大津市の「マタニティ応援プロジェクト」は、“食による健康支援”をテーマに、妊婦に対して栄養価の高い金芽米を毎月提供する、全国で初めての取組です。

この全国初の先進的な取組に大いに関心を持ち、その内容を学ぶために視察に伺いました。

本視察の目的は、妊婦への食支援を通じた健康増進や行動変容、健康リテラシーの向上といった実践的な取組を学び、「食を基軸とした母子保健政策」の行政的手法を検証することにあります。

## ③ 大阪府豊中市 生ゴミ・剪定枝堆肥化施設 緑と食品のリサイクルプラザ

本視察は、豊中市において、小学校給食の残飯や調理くず、さらに街路樹などの剪定枝チップを活用して堆肥を製造し、その堆肥を地域農家が利用することで、再び小学校給食に地産の食材として還元する「資源循環・地産地消モデル」の取組を学ぶことを目的とし実施したものです。



## ④ 大阪府豊中市 療育（0歳～就学前）

今回の視察は、豊中市立児童発達支援センターにおける相談支援体制や地域との連携、そして発達支援と医療的支援を一体的に行う総合的な療育モデルについて学ぶことを目的として実施したものです。

特に、子どもと保護者への継続的な支援の仕組み、就学前施設や家庭への訪問支援、さらに保護者を対象とした講座や育児支援などの取組が、地域全体で子どもを支える体制づくりにどのように貢献しているのかを把握することを重要な視点としました。

### ・視察内容

#### 大阪府泉大津市 健康増進施策あしゆびプロジェクト

泉大津市の「あしゆびプロジェクト」は、生涯寝たきりにならない体づくりを目指し、足



指や足裏から全身の健康を整えることを目的とした、幼児から高齢者までを対象とする全世代型の健康プログラムです。取組の柱は「足指の力と足部のアーチ形成」「体幹の安定」「正しい姿勢と動作」の三つで、ライフステージに応じた実践が行われています。

乳幼児期には、親子広場で足指を使った遊びや体幹運動を実施し、保護者にも運動

習慣づくりを促しています。幼児期には、民間企業と連携して足の形に合う草履型シューズをモデル園で導入し、効果を検証したうえで、現在では園での上履きとして草履の使用を推奨しています。学童期から思春期にかけては、体育授業に体幹強化運動を取り入れるとともに、教員研修を実施し、姿勢改善と運動能力の向上を図っています。

また、青壮年期には、正しい姿勢や動作、呼吸法に着目したセミナーを開催し、体幹からの健康づくりを推進しています。高齢期には、地域サークルなどで足指体操を展開し、転倒防止やフレイル予防に取り組んでいます。さらに、全世代を対象に、健康イベントや集団検診の際に足指力測定ブースを設置して、測定結果の可視化や健康啓発を行い、市職員も草履を履いて実践するなど、官民一体での推進が図られています。

#### ① 大阪府泉大津市 健康増進施策マタニティ応援プロジェクト

泉大津市では、東洋ライス株式会社と協定を締結し、市が事業全体の運営や健康データの分析を行い、企業が金芽米を無償で提供するという連携体制のもと、「マタニティ応援プロジェクト」が実施されています。本事業は、妊娠届出時に全ての妊婦へ金芽米 2kg を提供し、その後出産月まで毎月 10kg を支給する全国初の取組であり、妊婦検診やアンケートを通じて健康効果の検証も行われています。その結果、妊婦の体調不良（便秘や胃の張りなど）の軽減傾向や、出生児および 1 か月児の体重増加傾向が見られたほか、「経済的に助かった」「食への意識が高まった」といった肯定的な意見が多く寄せられています。今後は、妊娠 7 か月時の支援レター送付や 8 か月面談、産後アンケートなどを通じて、妊娠期から子育て期まで切れ目のない支援体制を構築していく方針です。

## ② 大阪府豊中市 生ゴミ・剪定枝堆肥化施設 緑と食品のリサイクルプラザ



豊中市では、1999年に市民や行政職員、事業者が参加した「生ごみ堆肥化プロジェクト」から取組が始まり、市役所や食堂の調理くずを用いた堆肥化実験を重ねた後、2000年に市へ正式に提案が行われました。その後、2002年には、生ごみと剪定枝を原料とした堆肥化施設「緑と食品のリサイクルプラザ」が開設されました。

この施設では、学校給食センターから排出される食品残渣や街路樹の剪定枝チップを発酵させ、堆肥「とよっぴー」を製造しています。作られた堆肥は市内の協力農家に活用され、育てられた野菜や米は再び小学校給食に使用されることで、資源が循環する環境教育的な食の仕組みが実現されています。また、地域で生産された食材を活用することで、運搬時の CO<sub>2</sub>排出の削減にもつながり、地産地消と温暖化防止の両面で効果が認められています。

さらに、市民団体「花と緑のネットワーク」が事業に継続的に参加することで、行政・市民・事業者が連携した協働体制が維持されている点も大きな特徴です。令和4年度には、堆肥を活用して生産された4種類の野菜と豊中産コシヒカリが合計94回、小学校給食に提供され、循環型の食と環境教育が着実に推進されています。



## ③ 大阪府豊中市 療育（0歳～就学前）



大阪府豊中市立児童発達支援センターでは、0歳から就学前までの子どもを対象に、初期の基本相談から障害福祉サービスの調整を行う計画相談支援、さらに在宅や在籍施設への訪問支援まで、発達段階に応じた切れ目のない支援体制が整備されています。

特に発達支援親子教室では、2歳児を中心とし、個々の発達特性に合わせた保育が行われ、保護者と支援者が子どもの状態や関わり方を共有することで、家庭での育ちの理解が深められています。

さらに、巡回訪問支援によって市内すべての就学前施設を定期的に訪問し、発

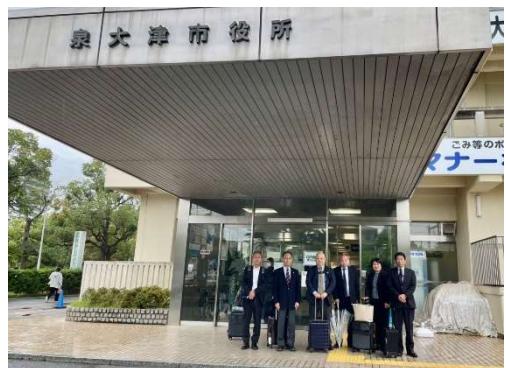
達に気がかりのある子どもの早期発見と支援につなげる仕組みが確立されています。

加えて、医療的ケア児への訪問保育や、障害児通所支援事業所へのスーパーバイズ、保護者向けのペアレントプログラムなどの講座、言語聴覚療法や理学・作業療法などのリハビリ支援を組み合わせ、療育と医療、相談支援が一体となった包括的な支援モデルが構築されていることが大きな特徴です。

#### ・行政視察の結果を本市にどのように反映させるか

##### ① 大阪府泉大津市 健康増進施策あしゆびプロジェクト

泉大津市の「あしゆびプロジェクト」は、「足指から健康寿命を延ばす」という観点で市民の健康意識向上に成果を上げています。本市でも、この取組を参考に、今後の健康施策の検討材料として活用することが有益です。幼児期から高齢期までを対象に、保育園や学校での運動プログラム、高齢者向け体操、健康イベントでの足指力測定など、市民が主体的に関われる仕組みや官民連携の推進体制の可能性が示されています。これらを踏まえ、泉大津市の事例を参考に、ながはま版あしゆびプロジェクトの方向性を検討していくことが望ましいと考えます。



##### ② 大阪府泉大津市健康増進施策マタニティ応援プロジェクト

泉大津市の「マタニティ応援プロジェクト」は、食による妊婦の健康支援を制度化した全国初の先進的な取組であり、行政と企業が連携して市民の健康を守る新たなモデルとして高く評価できます。本事業では、妊婦への金芽米の継続的な提供を通じて、経済的支援だけでなく、食生活への意識変容や健康リテラシーの向上も見られた点が注目されます。また、妊婦検診データや出生児体重などの客観的な健康指標に基づく効果検証を実施しており、エビデンスに基づく政策形成(EBPM)の観点からも優れた実践といえます。さらに、妊娠期から出産後までの切れ目のない支援を意識した設計は、母子保健政策の方向性を示す好例です。

本市においても、この事業を参考に、地域資源や企業との協働による「食と健康の支援体制づくり」を進めるとともに、健康データを活用した施策展開を検討することが重

要です。行政が「食」を通じて市民の健康を支える仕組みを構築することは、健康寿命の延伸や、安心して子を産み育てられるまちづくりに直結する取組として、大きな意義を持つといえます。

### ③ 大阪府豊中市 生ゴミ・剪定枝堆肥化施設 緑と食品のリサイクルプラザ

今回の視察を通じて、地域で発生する資源を地域内で循環させることができ、環境負荷の軽減だけでなく、食育や地域農業の振興、市民協働によるまちづくりにもつながることを改めて認識しました。本市においても、学校給食の残渣や公共施設の剪定枝など、地域内に存在する未利用資源を有効活用し、堆肥化から農業生産、そして学校給食への還元という循環の仕組みを構築することは十分に可能であると考えます。

また、この取組は、子どもたちが「食と環境のつながり」を体験を通して学ぶ機会となり、将来世代に持続可能な社会の意識を育む上でも大きな意義があります。今後は、本市においても行政、市民団体、農家、学校等が連携しながら、環境への負荷軽減と地域内資源循環の推進に向けた仕組みづくりを検討し、循環型社会の実現に向けて取組を進めていきたいと考えます。



### ④ 大阪府豊中市 療育(0歳～就学前)

今回の視察を通じて、本市においても、子どもと保護者が必要とする支援が途切れることなく継続される体制を整えていくことが重要であると強く感じました。特に、相談支援、通所支援、訪問支援の連携が円滑に行われる仕組みの構築、就学前施設への巡回支援体制の整備、そして保護者自身が子どもとの関わりに自信をもてるような学習機会の提供は、今後の地域支援において大きな役割を果たすと考えます。

また、医療的支援を必要とする子どもや特性が多様な子どもに対して、地域内で包括的に支援が完結できる環境づくりを進めることができます。今回学んだ豊中市の総合的な支援モデルを参考にしながら、本市における実情に応



じた形で支援体制の強化と連携の促進を図り、子どもと保護者にとってより安心できる支援環境の充実に努めていきたいと考えます。